

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191300041		
法人名	社会福祉法人慈恵会		
事業所名	さわやかグループホームさかほぎ		
所在地	岐阜県加茂郡坂祝町黒岩165-1		
自己評価作成日	令和2年9月15日	評価結果市町村受理日	令和2年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2191300041-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	令和2年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット9名の小規模の利点を活かし、アットホームで利用者様同士の交流が図りやすく、馴染みの関係が構築され、自由に過ごす事ができることで家庭と変わらぬ生活を追及している。地域との交流では、切手収集、傾聴ボランティア、臨床美術など楽しみを持って参加いただくことで、脳の活性化促す手法を取り入れている。レクなどの活動も利用者様にどのような活動を好まれるか聞き取りを行いながら提供を行っている。記録の保存、共有化のため法人全体でパソコンに「ちょうじゅ」を取り入れ業務のスマート化、質の向上を目指している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、社会福祉協議会や同法人の特別養護老人ホーム等に隣接しており、町の福祉の中心となる場所に位置している。利用者は玄関で寛ぎながら、目の前の池を眺めたり、時には散歩がてらに木々の生い茂る小道を歩くこともできる。喫茶の日を設けて、利用者がスタッフとして、家族や地域の方へのおもてなしをしたり、ボランティアの手伝いをするなど、様々な取り組みを試みている。今年度は、新型コロナウイルスの影響で多くの行事が中止となり、地域との交流を自粛せざるを得ない状況であるが、職員が知恵を出し合い感染予防に努めながら、利用者が楽しめるようレクリエーション活動に力を入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	慈恵会基本理念を毎週月曜日に職員全員で唱和し、その都度理念を共有している。	法人理念の他に、エリア目標も玄関に掲示している。職員は理念を唱和するだけでなく、日常の支援の中でも常に意識することで、時には立ち止まり振り返りを行い、全職員で共有しながら更なるサービスの向上に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	併設施設の行事等に参加するほか、町主催の行事にも積極的に参加する事で地域の一員として交流している。買い物や散歩に出かける事で、馴染みの住人に出会う事もあり、自然な交流を行う事ができている。	隣接する福祉センターの催しに参加し、利用者の作品を出展、見学に行っている。町立幼稚園の園児との交流会も行っている。コロナ禍ということで、地域交流が思うようにできていないが、収束後には、様々な交流が再開できる事を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設回りの道沿いの清掃を行うなど地域の環境整備に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	役場福祉課・民生委員・保育園園長・家族代表等の参加で2か月に1回開催。事業運営報告や最近の様子の報告を行い様子を見ていただく他、自由に意見交換を行う事でサービス向上につなげている。	現在、面会制限も行っており、運営推進会議は、書面開催としている。町内にも良い場所がたくさんあるという意見が出され、地元の神社へ行くなど、職員も利用者共に地元の良さを再認識するきっかけとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他、毎月町内の事業所連絡会に出席、利用者様の状況や待機者について報告している。又、そば打ち等の行事に参加していただいて事業所の様子を見ていただいている。	担当者に、困難事例や待機者の状況について、相談や報告をしている。行政とは、同エリアにある施設全体で連携しており、独居高齢者の相談を受けたり、町の補助金制度について相談をすることもある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束に関する勉強会を開催し、身体拘束についての理解を深める事で身体拘束のないケアを実践している。夜勤帯の安全確保できない時以外は自由に出入りできるように開放している。	法人内に身体拘束廃止検討委員会を設置している。研修や勉強会でスピーチロックについても正しく学び、チェックリストで自己のケアを振り返っている。日常のケアで、身体拘束ではないか、無意識に不適切なケアを行っていないか、常に意識しながら拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法についての勉強会を開催する事で、虐待についての理解を深め虐待防止に努めている。		

岐阜県 さわやかグループホームさかほぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいるが、現在は該当する人がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書の取り交わしについては、事前面接さらに入所時にも十分な説明を行っている。内容に変更があった都度取り交わしを行い、ご家族からの疑問点は質問していただき理解を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族の意見要望について、面会時に確認をする他、毎月の状況報告書にも意見要望をFAX等で送信できる様記入欄を設けている。また、毎年アンケートを実施、いただいたご意見には職員全員で真摯に回答しサービス向上に努めている。	法人全体で行う「家族アンケート」の結果をホームで回覧し、内容を共有しながら改善に繋げている。面会に訪れる家族も多く、利用者の状況等を誰でも説明できるよう、全職員で利用者の情報を共有し、家族との信頼関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りや毎月施設長を交えた職員会議で意見交換や提案、ケアの気づき等の意見交換を行っている。職員からの意見、提案をホームの運営に活かしている。	管理者も職員と共に現場に入っており、職員の意見や提案を聞く機会が多い。また、エリア長も事業所に顔を出すことが多く、職員の様子を見て声かけをしたり、悩み事などを聞きながら、職場環境や条件の改善に努めている。	日々の業務や行事開催時に、職員の負担が大きい場合がある。様々な取り組みや行事開催を今後も継続できるよう、さらなる環境作りと改善に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ストレスの要因について気を配り、職員同士の人間関係を把握するようにして、実績・努力・業務状況の確認に努め、向上心や勤労を奨励している。又、ストレスチェックの実施等、メンタルヘルスにも配慮を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修委員会を構築し、新人・中堅・中堅フォロー・リーダー研修等の習得段階に応じてコースを設定している。外侮研修、法人研修の取り組みには、勤務調整を行い参加を可能するように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当法人グループホーム7事業所が「向上委員会」として2か月に1度のサービスの質、コンプライアンス等に関する情報交換や学習会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所に際し、担当ケアマネジャーからの情報を基本に直接ご本人、ご家族から心身状況、生活歴、家族構成、趣味、性格等可能な限りの情報を収集してアセスメントに反映し不安や要望を把握して安心していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の悩み、環境を把握して、ご本人ご家族の望まれる支援に努めている。サービスの開始後も面会・近況報告にて情報収集の機会を設ける。電話にて状況報告を行い信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様やご家族の立場に立って状況の把握と傾聴を行いできる限り柔軟な対応で、方向性が見いだせるような助言をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご利用者様の生活歴や心身の状況を観察し、共に家事等を行い、暮らしの中での役割を持っていただく事で、ご自身のやりがいの発見に心がけている。又、利用者様同士の助け合いが自然に行えるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時には、日常生活の様子を細めに伝えている。又、ご家族の面会も積極的に支援する事で、ご本人とご家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や外出、外泊は原則的に規制しないと共に、来訪者が気軽に訪問できるような場の提供に努めている。又、地域の町民祭り等にも積極的に参加し、馴染みの関係が途切れない様になっている。	ホームに入居して、今までと住む場所が変わっても、利用者が馴染みの人との関係を継続できるよう、地域の催しや買い物と一緒に出掛けるなど、支援をしている。墓参りなどの個別外出は、家族の協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性を職員が把握し、トラブル等を未然に防ぐようさり気なく職員が間に入る、座席の配慮を行う等をしている。トラブルが発生した時には双方の思いを傾聴し、安心していただけるような支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	通所時の連絡調整、情報提供、相談支援を行いながら、退所先でも円滑に支援が受けられるように努めている。又、死亡による退所の際には、遺族の心情に最大限配慮し、気持ちの整理が着いた頃を見計らって引き渡しの手続きを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様が個々にしたい事、できる事を日常会話や家族からの情報、収集し把握している。その日の気分や体調に合わせて、散歩やアクティビティなどの個々の意向に配慮し支援している。	職員は、普段の関わりの中で、会話の内容や表情から利用者の思いを汲み取っている。利用者の思い出話を聞く際も、冗談を交えながら話しやすい雰囲気を作り、新たな思いや意向を記録に残している。職員間でそれらを共有しながら、本人本位の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報収集を始め、利用者様との会話や家族・知人など、本人様の入所前を知る方々からの聞き取りを行い把握に努めている。諸般の事情により把握が困難なケースもあるが、できる限りの取り組みを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の観察により、早期発見に努めている。又加齢に伴う体調変化のリスクに留意し、必要に応じたバイタルチェック、食事や排せつ状況を把握し、朝・夕の申し送りにて対応の統一を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングと、ご本人・ご家族の意向を伺い、双方の意向を反映した、ご利用者主体の介護計画書を作成している。又3か月ごとの評価をし、状態の変化に応じ随時見直しを行っている。	担当職員がモニタリングと評価を行い、その結果を踏まえて介護計画を作成している。毎月、家族に状況報告と共にモニタリングの結果を送付し、利用者の進捗状況が確認できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々ケアプランに沿った経過記録を残し、モニタリング・評価に反映次のケアプランに活かす努力をしている。又、体調変化等に対して、家族との連携を密にし最善の方法を検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設施設の行事等に参加するほか、町主催の行事にも積極的に参加する事で地域の一員として交流している。買い物や散歩に出かける事で、馴染みの住人に会う事もあり、自然な交流を行う事ができている。		

岐阜県 さわやかグループホームさかほぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティア等と、日頃より交流し豊かな暮らしを提供できるように支援しているほか、事業所連絡会議や外部研修などで、地域資源に関する情報収集を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力により在宅時より通い慣れた医療機関への受診、通院を行っている。事情により外部受診ができない場合は、往診を依頼している。又主治医と情報提供書、看護サマリー等で連携を密に図っている。	利用者と家族の希望により、入居前のかかりつけ医を継続している。定期受診は家族同行を基本とし、利用者の様子は書面で情報提供をしている。緊急時は職員が対応し、主治医や併設施設の看護師と連携しながら、適切な医療を受けられるよう体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師との連携により日頃より、医療面の指導助言を受け、急変時に対応できる体制を構築している。又簡易な医療処置（皮めくれ・巻爪等の処置）が必要な場合、協力依頼している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院先のソーシャルワーカー、主治医、看護師と情報提供書、看護サマリー等で連携を取っている。入院先は定期的に見舞うようにしてご家族と共に情報交換をしながら退院の支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については、入居前に事業所の方針をご本人、ご家族に十分に説明し、了承を得ている。医療依存度の高い方には、退去してもらう方針である。退去後の受け入れ先の確保等、ご利用者・ご家族が安心して、いただけるように支援している。	契約時に、重度化や終末期の方針を説明している。看取り支援を行っていない為、状態変化があった時には家族の意向を確認しながら、医療機関や他施設への転居等について説明している。本人・家族に必要な情報提供も行いながら、最善な支援ができるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルの常備、ご利用者の急変や事故発生時に備えて併設看護師から応急手当の仕方や初期対応の指導を受け、いざと言う時に即応できるように準備している。又2年に1回の救命救急講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	行政や地元自治会と合同で、夜間や風水害等想定した訓練を積極的に実施している。運営推進会議などで報告している。三日分の備蓄も備えている。	隣接する同法人施設や協力企業と合同防災訓練を行っている。訓練後には、利用者の避難誘導について振り返り、課題点を話し合いながら対策を検討している。行政、自治会、協力企業との連携も取れる体制になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個々の人格、尊厳を尊重する事を基本に、プライバシーの確保、人生の先輩として敬意を込めた関わり方を心がけている。又エリア内で毎月開催されている合同接遇委員会に参加し、資質向上に努めている。	職員は、常に、自分がされて嫌だと感じる事は行わないよう心がけ、トイレ誘導時の声かけは、利用者の羞恥心に配慮するよう努めている。接遇委員会で話し合った内容を全職員に周知し、情報を共有しながら支援に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人の思いや希望を表現できる環境を作るように努め、遠慮のない生活を送れるように支援している。意志表現の困難な方には、表情をみて寄り添える支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで1日を過ごしていただいている。家事手伝い・散歩・塗り絵・機能訓練・レクなど利用者様の希望に沿ってその人らしく過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に利用者様のご自分の好みの衣類を選んで更衣される。できない方は、職員が付き添い更衣され身だしなみを整えている。散髪は、地域の美容院から出張にてお好みのヘアスタイルにしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は、気分転換を兼ねて職員と買い出しに出かけることもある。職員と利用者が一緒に食卓を囲み会話を楽しみながら食事をいただいている。又旬の食材を使った献立や郷土料理なども取り入れている。	食事は、栄養士が作成した献立をもとに調理し、味や彩りに工夫しながら、三食手作りで提供している。誕生日には、利用者からのリクエストに応えたメニューを提供している。お盆拭きや下ごしらえなど、利用者もできる範囲で関わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後、食事量・水分量の摂取量を把握し必要な方には、栄養補助食品を摂っていただいている。栄養士が立てた献立を元に栄養バランスの摂れた食事が摂取できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛け見守りを行っている。自己にて困難な方には介助を行い清潔保持に努めている。又訪問歯科による口腔ケア等においても清潔保持に努めている。		

岐阜県 さわやかグループホームさかほぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを尊重し、尿意を訴える事が困難な方には適切な時間に職員が誘導を行い、排泄介助を行っている。介助が必要な方には配慮を行いながらの対応をしている。	トイレでの排泄を維持できるよう、個々のタイミングに合わせた声掛けとトイレ誘導を行っている。夜間は、職員で話し合いながら、利用者の状態に合わせて、適切な排泄用品を選択して支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの摂れた食事、こまめで十分な量の水分補給、毎日の体操の実施を基本に、便秘の予防解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に週3回以上で、希望があればそれ以上でも対応している。菖蒲湯、ゆず湯など季節を感じる入浴も取り入れている。通常は入浴剤を使用し温泉気分を楽しまれている。	利用者の希望があれば、毎日の入浴も可能である。入浴時間は、職員と利用者が一対一となり、ゆっくり話が出来る貴重な時間でもあり、思いや意向を聞きながら、介助に努めている。入浴を拒む利用者には、声掛け方法や曜日を変更するなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣やその時々状況に応じて自由に休息していただいている。又夜間も希望の時間まで自由にテレビを観て過ごし穏やかに気持ちよく休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の目的、用法など理解しており自分で服用できない方には、確実に飲んでいただけるように口に入れるなど、飲み忘れ誤薬などない様に支援している。又日常の様子観察、バイタル測定等から薬の作用、副作用に注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や力を活かした役割を考え、家事手伝いをして頂いている。又ボランティアとの活動やレクなどを通して楽しみや気分転換の支援を行っている。楽しみや張りのある生活が送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や季節に配慮しながら、散歩や買い物に出かけている。月1回の外出行事が出来るように支援している。又家に帰りたい等希望がある時には、ご家族と連携し、可能な限り実現できるように努めている。	日常的に、玄関先のベンチで気分転換を図ったり、事業所周辺の散歩や近所の神社に行くこともある。年間行事でマイクロバスでの紅葉狩り、イチゴ狩りなどの企画外出等を行っていたが、現在は、新型コロナ感染予防対策として、散歩以外の外出は自粛している。	

岐阜県 さわやかグループホームさかほぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在自己管理できる方がいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればその都度対応し、ご家族からの電話を取り次ぎお話をさせていただいている。又ご本人や職員からの勧めにより、年賀状や手紙などの投函を行えるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室と共用空間はご利用者と共に毎日掃除を行い快適な環境を整えている。木のぬくもりのある建物で天井の斜光も優しい。ご利用者が自分の力で動けるよう手すりを設置し、障壁のない空間を確保している。廊下には作品や毎日の様子を撮った写真を掲示し、当時を思い出していただいている。	天窓がある共有空間は全体的に明るく、木の温もりが感じられる造りとなっている。畳の部屋もあり、利用者が裁縫をしたり、洗濯物畳みを行っている。廊下には行事や利用者の暮らしぶりが分かる写真が貼ってあり、訪問客と利用者の会話のきっかけにもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有のテレビはホールにあり、いつでも自由にみる事ができる。一人になりたい時には、自室で過ごせる時間の確保にも配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々に写真や作品などを飾りつけている。思い入れのある物を居室に配置する事で、安心して居心地よく過ごせるような工夫をしている。居室の入り口には、ご自分の部屋と認識できる様に木の表札をかけている。	居室には押し入れと洗面台が備え付けられ、床はフローリング仕様である。好みの物を持ち込み、家族の写真を飾るなど、それぞれが居心地良く過ごせる居室となっている。掃除も行き届いており、清潔感が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者が自分の力で動けるように手すりを設置し、障壁のない空間を確保している。又同線を妨げない様に家具等物品の配置に注意している。		